

## 2 リンゴの栽培を通しての心の育成への関わりの事例

### (1) 豊野西小学校とリンゴの栽培

本校は周囲をリンゴ畑に囲まれており、豊野町時代のシンボルもリンゴであったことから本校とリンゴとのかかわりは深い。学校の記録によると、勤労学習として20年以上前より取り組まれており、最近では学校の上にあるリンゴ畑より、リンゴの木を2本お借りし、選定から花摘み、摘果、収穫と体験学習を行っている。実施に当たっては、地域の方々や保護者の力を借り、子どもたちと一緒に進めている。収穫されたリンゴは、全校の子どもたちやお世話になった方々に配られている。一連の学習は、3年生の総合的な学習の中核となる活動に据えられている。



### (2) 活動の様子

#### ○りんごの剪定（りんごとの出会いから次第に自分たちの育てたりんごに思いを深める）

初めてりんごの木を見にいきました。これまで、収穫したリンゴはおいしくいただいてきたものの、どこにりんごの木があるのかもよく知らない子もいて大きな木にびっくりする子どもたちもいました。（略）せんでいって何？からはじまり、実際に自分たちも1～2本切らせていただきました。せんでいの意味を感じると共にりんごの木に一歩気持ちを近づけることができたように思います。）

約一ヶ月間ずっとほったらかしにされていた枝さん達。時にはふまれ、時にはチャンバラの道具に使われと、全く子どもの意識は向いていない状態でした。そこで、この機会にちょっと枝さんたちに目を向けさせてみました。すると、自分が枝さんだったらと考え始めた子どもたち。考えた結果出てきた結論が、自分たちの好きな工作で使って、作品として残していくこと。そして、残った枝は、焼き芋の時に使うといいよということになりました。子どもたちの中にある、「一本一本の枝を大切に」という意識は、枝に触り考えていくうちにイメージでき、ぐんぐんと作り続けました。「枝を曲げるのがかわいそうかな」と1本1本を大切にしようとする心になってきました。講師の先生から、枝をふんだり投げたりする行為が全くなかったことも大切にしようとする子どもたちの心の表れではないかとほなして下さいました。（5月の学級通信より）

りんごとの  
出会い

・花摘みの  
体験  
・お話をお  
聞きする

剪定した  
枝も大切  
なリンゴ

自分たち  
のりんご  
っち

#### ○りんごの花摘みと摘果

**花摘み** 5月になり、リンゴの花摘みを実施。いっしょに参加させてもらう。中心花を残し、他を木から取り除く作業。こどもたちには、せつかく咲いている花を取ってしまうのはかわいそうとの思いもあったが、よいりんごが育つためと聞き、喜んで作業を進める。

**摘果** 参観日に子どもと保護者がいっしょに取り組む。保護者からは残す実、摘果する実について教えてもらう。また、リンゴ農家の方より日常心がけている点等をお聞きする。

摘果されたりんごさんは、みんなに食べてもらえるりんごになれなくてかわいそうです。でもずっと地面においておけば、土にもどって栄養になるので、役に立ちます。だから、摘果されたりんごさんは、けっして悪いことになったのではないから、安心してね。（児童の学習カード）

#### ○リンゴの栽培への関心を深めるための関わり

作業が少なくなり、リンゴのことが忘れがちな子どもたちに対し、夏休み中にりんご畑に通じる道の草刈りをするなど目が向きやすくなるように工夫する。「先生、りんごっちどうしているかな？」との声に、スケッチを描かせる等して思い起こさせ、成長に目を向けさせる。「すげえー、こんなに大きくなっている」と摘果

した時の実と比べて驚く子どもたち。体験を通しての感動や驚きが伝わる。

りんごは1ヶ月前に見たときより大きくなってすごい。前は5cmくらいだったけど、今10cmくらいですごい大きくなったなと思いました。1ヶ月だけでこんなに大きくなるんだということがわかりました。夏休み前から夏休み後で5cmも大きくなるんだとわかりました。(児童の学習カード)

### ○りんごの葉つみから収穫へ

秋になり生育にあわせて葉を摘み取る。日光が当たることでりんごに色がつき赤くなる。りんごに透明シールを貼り、自分だけのりんごをつくる。(10月)

保護者にお手伝いをしていただき、りんごの収穫をする(11月)

収穫はとてもたいへんでした。取り方をおしえてもらうととてもらくにとれました。赤くていいりんごは鳥さんたちにはほとんどたべられてしまっていました。小さくてかわいいのもありました。くさったりんご食べられていたりんごはかわいそうに、「せっかくここまであかくなったのに」という気持ちのりんごだと思いました。自分の(りんご)がないと思って探していたら、○○ちゃんがさがして見つけてくれたよ!

いままでずっとありがとうりんごさん。(児童の学習カード)

### ○収穫されたリンゴはどうなるだろう 共選所の見学(12月)

学校近くの共選所に見学に行き、農家でつくられたりんごが出荷されるまでの様子を見学し、地域と社会とのつながりを学習する。

### ○感謝の会の実施(2月)

お世話になった人を招いての感謝の会を行う。会は、りんご学習の取り組みの様子の発表、お世話になった方々への感謝のあいさつ、りんごホットケーキのプレゼントである。担任はここでも活動を通して子どもたちを育てることに力を注いだ。

この1年間のリンゴ作りでお世話になった方々にお礼の気持ちをつたえたいと考え、その準備を始めようと話し合いが行われ、係分担等を決め始めたのですが、問題発生!プレゼントづくりの係と会場係に人気が集中し、一番大切である面大変なお礼の手紙係に希望者なしの状態になってしまったのです。(略)決めたのですが、あれれ?泣いている子がチラホラりとみられるんです。希望する係になれなかったことに対する悔しさなのか?決め方への不満なのか、ここで準備はストップしました。そこで子どもたちに問いかけたのは、この会は何のためにやるのですか、自分たちが楽しむためですか、一番大切なのはなに?さあ、子どもたちはどんな答えを出してくれるのでしょうか。(学級通信より)

## ② 全校児童に紹介

12月の校長講話で、がんばっている学習の紹介の一つとして、リンゴ作りを取り上げ、学級の取り組みの様子や感想を紹介した。

略・11月22日にみんなで収穫です。

そろそろ寒くなる季節です。りんごの木も来年の春まで、静かに冬を越して次の年を待っています。

皆さんも知っているとおり、昨年度120周年を記念して、校舎の北側にりんごの木を植えました。あと数十年たって、皆さんがお父さん、お母さんになったとき、子どもたちにこの木は、お父さんが小学校2年の時に植えたんだよ、なんてお話ができるといいですね。

3年生はりんごをととても大切にしてきました。詳しい様子は終業式に発表してもらえとのこと。先生も楽しみにしています。(12月の校長講話)



2学期の終業式に3学年の子ども達がりんご学習について発表を予定されていたため、取り組み様子を簡単に触れ、詳しい取り組みについては終業式の児童発表に託す。校長講話でふれたことについては、2月に行った感謝の会で次のように述べられている。

私たちのりんごの学習の様子を1年間ずっと見まもっていただきありがとうございました。たくさんのしゃしんをとってくださったりいろんな作業の時にアドバイスをしていただきとてもうれしかったです。また、全校朝会の時に、りんご学習のことを話してくださったときは、ワクワク聞いていました。

1年間本当にありがとうございました。そして来年もよろしくおねがいします。

豊野西小学校3年生一同 代表○○○○

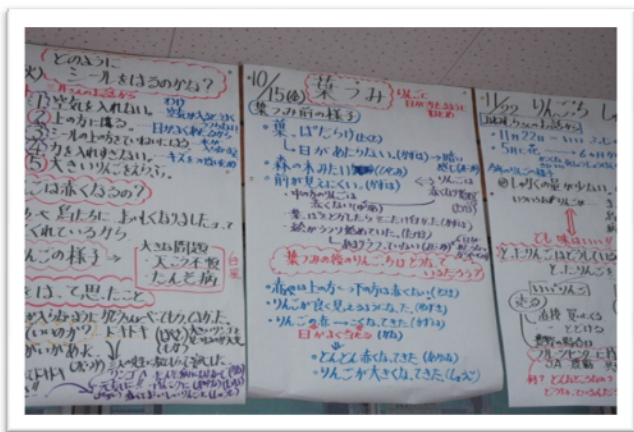
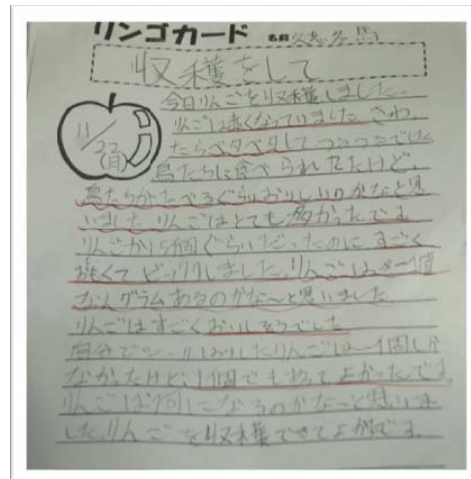
活動が学級や学年で閉じず、全校朝会で校長より活動を紹介されたうれしさが伝わってくる。

### ③ 資料の収集と蓄積（デジタルカメラやビデオの活用）

活動に参加する場合は、できるだけ学習の様子を写真やビデオに残すよう心がけた。集めたデータは学年職員が活用できるよう、決められた場所に保存し職員に提供した。

右は掲示された一人ひとりの子どもの学習カードの1枚である。教室後ろには写真を使った学習の歩みが掲示してあった。このように学習の流れが一目でわかると、振り返りが容易となるだけでなく、保護者や学級外の方も取り組みの様子を知らせることができる。教室環境も明るくなり、活気ある教室の雰囲気をつくっている。

職員が撮影した写真やビデオは校内 LAN に集積することで、いつでも利用することができる。学習の振り返りや学年便り等には保存されたデータを活用した。また、web 上に保存することで、より簡単に事後の振り返りができるようにしている。



## 四. まとめと今後の課題

本報告で示したように子どもたちは継続的に関わることを通して、「自分たちのつくったりんご」とか「地域で育てたホテル」というように人やものを大切にしようとする心が育つ。また、活動における体験は、教室で学習した知識を統合し、新たな疑問に繋げる等「主体的に学習する力」を身につけることにつながる。今年も連休後にヨモギ集めをした。保護者の声は「自分たちが小学校時代もやっていたヨモギ集めが今も続いていることが驚きだ」とか「ヨモギを集めることで、親子で新しい経験ができた」など、好意的な意見が寄せられている。教師からは「休日は社会体育等に参加しているため、親がヨモギを採り、子どもの活動になっていない」「体験活動で楽しいことを経験しても、米作りやリンゴ作りにある苦勞をする体験が少ないのではないかな」などの問題もあがっている。

体験活動については学習時間確保のために止めてしまった、ということも耳にするが、本校では従来続けられてきた活動を大切にしている。昨年同様の行事を行っていても、学校の重点と体験活動との関連を考え、「今年の〇〇」として実施したい。保護者からは「古くから続けてきた。体験的な活動をきちんと伝えることは親の務めである」との声も伝えられた。本校の体験活動を肯定的にとらえて下さる地域や保護者のみなさんに感謝である。学校の願いや取り組みを発信し、活動を結びつけ、スムーズに運営できるよう援助することが校長の役割として大切であると考えている。